

お ぼ と ⑥ 中津川市尾鳩地域防災を考える会

活動拠点：恵山荘（〒508-0001 中津川市中津川3449-2）
代表者：酒井 孝行（中津川市南地区尾鳩区長）
会員数：44名

地区の概要

中津川市尾鳩区には、土砂災害警戒区域が多くあり、その中を用水路が流れている。また、孤立する恐れのある集落があり、地すべり危険地域に面している。中津川市の災害で特に大きな被害があった昭和7年8月の「四ツ目川大災害」を教訓に、地区の住民に対して、防災の意識を高め、いち早く自主避難することの重要性を理解してもらうため、自主防災活動を行っている。

自治会である尾鳩区の区長を代表とした団体で、会員は区の住民である。平成21年に立ち上げ。区域内の草刈り、防災パトロール、防災講演会などを積極的に展開している。

主な特色

●土砂災害警戒区域内の草刈り作業から始めた防災対策、国土交通省との連携

まず住民に、災害区域を知ってもらう事から始めようと、自治会のメンバーで、随時、警戒区域内の草刈りを行った。また、地滑り・大雨・土石流注意の看板を設置することにも着手していった。国土交通省の砂防施設であったことから、この自主的な活動を通して、防災講演会の開催など国土交通省との連携が深まった。

●地域住民の防災意識を高めるための取組

住民も徐々に自らの地域の防災活動に関心を持つようになり、自治会メンバーで構成する「尾鳩地域防災を考える会」という団体名で活動し、市からも助成を受け、多くの自主防災事業を展開している。

1. 防災パトロール

土砂崩れなどが起こる予兆がある個所がないか徒歩でパトロールをし、安全点検を行うと共に、現状を認識している。

2. 戸沢川エクスカージョン

過去に大災害が発生した現場に向向き、当時の状況を聞き、現状はどのようなかなど、意見交換を行う体験型学習会（エクスカージョン）を行い、防災意識を啓発している。エクスカージョン用ガイドブックも作成した。

3. 講演会・学習会・視察研修

降雨体験学習会では、土砂災害の映像の視聴、砂防施設の役割を模型から確認、6人一組での降雨体験機での時間雨量20ミリから100ミリの降雨体験、災害時対応としてキッチン用口ケットストーブでまきを利用した調理などを体験した。消防・警察・国土交通省・大学・市・県・企業と連携して講演会などを企画開催し、自主避難の大切さや防災意識を高めるための啓発を行った。

4. 戸沢川堰堤内事業（あまご育成）

子供たちを含め地域住民の方に、砂防堰堤に関心を持ってもらうため、砂防堰堤近くに池を作りあまごを飼育している。



戸沢川の様子



防災学習会

ポイント 土砂災害に対する避難のタイミング及び自主避難の大切さを熱心に啓発

過去の災害を教訓に、尾鳩地区の危険個所の写真を使ってリアルに説明を行い、土砂災害では、早く避難すれば必ず助かるということを学習会・講演会などを通して、地域住民に訴えている。「自主避難のできる地域づくり」を目指して、様々な活動に取り組んでいる。

今後の展望

団体を立ち上げて5年以上経過したが、防災パトロール活動参加者の人数は伸び悩んでいる。市をはじめ関係機関・団体と情報交換、連携をしながら、自分たちの地域の土砂災害に対する防災・減災意識を向上させるための効果的啓発方法を考え実行していきたい。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

次世代地域リーダー塾を開催しました！ 10月～12月、3回連続講座

県では、新たな視点や感性で地域と関わり、地域の課題へ先導的にアプローチできる次世代リーダーを育成する講座を開催しました。県内各地域から、自治会など地域団体やNPOで活動されている方約40名にご参加いただきました。第1回では、先進的に活動する3団体の代表がパネリストとして事例を発表し、「新たな地域活動を創出する地域リーダーとは」というテーマで、参加者も交えてディスカッションを行いました。第2・3回ではグループワークの演習方式で、一体感・参加・活力の3つの観点からコミュニティを診断し、地域の課題を病気に見立て、改善のための処方箋を、短期療法と長期療法に分けて考えて、グループごとに発表し合いました。

